

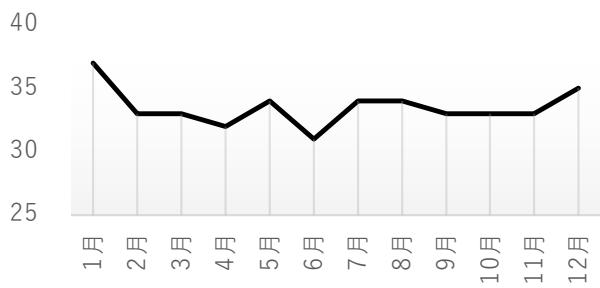
焼津市立総合病院

病床数 423 床
 常勤医師数 4 名
 指導医数 1 名
 非常勤医師数 2 名
 外来コメディカル 4 名

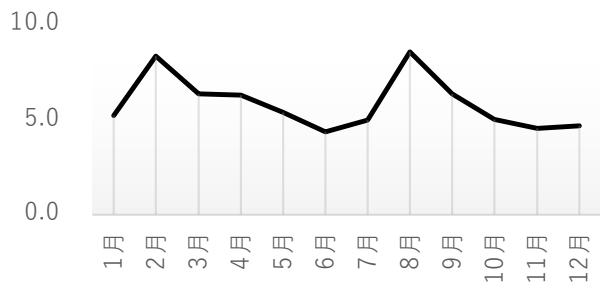
全身麻酔症例数 212 例

診療実績			
	外来	入院	
	1日当たり 外来患者数	入院日数	1日当たり 入院患者数
1月	37	162	5.2
2月	33	234	8.4
3月	33	197	6.4
4月	32	189	6.3
5月	34	167	5.4
6月	31	131	4.4
7月	34	155	5.0
8月	34	266	8.6
9月	33	191	6.4
10月	33	156	5.0
11月	33	136	4.5
12月	35	145	4.7
年間平均	34	177	5.8

1日当たり 外来患者数



1日当たり 入院患者数



耳科手術	26 例
鼓室形成術	6 例
慢性中耳炎	3 例
真珠腫性中耳炎	3 例
鼓膜チューブ挿入術	13 例
人工内耳手術	0 例
アブミ骨手術	0 例
顔面神経減荷術	0 例
先天性耳瘻管摘出術	1 例
外耳道形成術	0 例
鼓膜形成術	1 例
乳突窓開術	3 例
試験的鼓室開放術	0 例
中耳根本術	0 例
内リンパ囊開放術	0 例
聴神経腫瘍摘出術	0 例
鼓膜切開術	2 例
鼻科手術	137 例
内視鏡下鼻・副鼻腔手術	111 例
鼻中隔矯正術	19 例
鼻甲介切除手術	5 例
視神経管開放術	0 例
涙囊・鼻涙管手術	1 例
眼窩吹き抜け骨折手術	0 例
顎・顔面骨折整復術	0 例
鼻外手術	1 例
口腔咽喉頭手術	135 例
扁桃摘出術	101 例
口蓋扁桃摘出	10 例
アデノイド切除	例
舌、口腔、咽頭腫瘍摘出術	例
口蓋垂・軟口蓋形成術	1 例
舌・口腔良性腫瘍摘出術	1 例
舌・口腔悪性腫瘍摘出術	0 例
咽頭良性腫瘍手術	1 例
咽頭悪性腫瘍手術	0 例
喉頭微細手術	例
嚥下・音声機能手術	2 例
喉頭腫瘍	10 例
嚥下機能改善	2 例
誤嚥防止	0 例
音声機能改善	0 例
(うち声帯ポリープ切除)	3 例
喉頭形成術	0 例
喉頭截開術	0 例
頭頸部手術	63 例
頸部郭清術	1 例
頸下腺	3 例
頸下腺良性腫瘍	0 例
耳下腺	7 例
耳下腺良性腫瘍	0 例
甲状腺	16 例
甲状腺良性腫瘍	4 例
甲状腺Basedow病手術	12 例
甲状腺悪性腫瘍	1 例
鼻・副鼻腔	1 例
鼻・副鼻腔良性腫瘍	0 例
鼻・副鼻腔悪性腫瘍	0 例
喉頭	0 例
喉頭悪性腫瘍	0 例
リンパ節生検術	11 例
頸部嚢胞摘出術	2 例
頸下腺摘出術	2 例
食道異物摘出術	0 例
気管異物摘出術	0 例
異物摘出術 (外耳・鼻腔・咽頭)	0 例
気管切開術	14 例
深頸部膿瘍切開術	2 例
唾石線摘出術	1 例
扁桃周囲膿瘍切開術	1 例
喉頭蓋囊腫摘出術	1 例
過長茎状突起切除術	1 例
気管口狭窄拡大術	2 例
皮膚皮下腫瘍摘出術	2 例



業績

学会発表			
発表日	学会名	筆頭演者	演題名
2024/4/7 第131回目耳鼻静岡県地方部会学術講演会		相川遂夫	ニボルマブ投与後、Stevens-Johnson症候群を発症した1例
2024/8/31 第30回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会		吉見亘弘	不全型ハント症候群に嚥下障害を合併した1例

原著論文（邦文）	題名	雑誌名	巻号	Page
南條茉央、野田和洋、森泰樹、三澤由幾、三澤清	甲状腺穿刺吸引細胞診後に発症した一過性びまん性甲状腺腫脹例	耳鼻咽喉科臨床	117	6553-558
南條茉央、中西啓、喜多淳哉、新村大地、三澤清	難治性中耳炎として初期治療された中耳腺腫例	耳鼻咽喉科臨床	117	10895-901

近況・病院アピール

2024年度は石川、吉見に加えて新入局の相川遂夫先生の3人体制でスタートしました。手術日は火曜日と金曜日で、毎週金曜日午前に松尾先生が外来診療応援に来ていたり、また、毎月1回金曜日午後に静岡済生会総合病院から遠藤先生に耳外外来の応援をいただいている。10月には南條先生が育児休暇から復帰し、これを機に、手術日にも外来を開くようにしてご紹介頂ける場合にも紹介元の先生が曜日を気にすることなく、また患者さんも受診まで日数をかけることがなくなったと思います。教育的な面でも、手術が入らなかつた専攻医の先生が手術日の外来を担当するようになり紹介初診患者を診療することで、各先生方の経験が偏りにくくなつたと思います。

2025年度になり、吉見に代わり森福が着任し、指導医・専門医は石川1名、専攻医が南條、森福、相川の3名になりました。それぞれ個性は異なりますが、みんなやる気は十分で、それぞれが担当した問題の解決方法を考え、困ったときには助け合える体制で日々過ごしています。

診療設備の面では、耳管機能検査を導入し、また、外来の内視鏡更新に合わせてストロボスコープを導入しました。今後はT&Tオルファクトメーターの導入を進めているところです。

新病院建設設計画は、一度は実施設計まで進んだものの、結局設計自体が一度白紙になつて再度基本設計からやり直しになつたようです。